

火の見櫓

(題字は 柴谷八尾市長)

発行所
八尾市消防団
発行責任者
八尾市消防団長
松村芳治
八尾市高美町5-7
TEL(0729)92-0119
FAX(0729)92-7722



◆ 夏空の下 凜々と ◆

8月4日(日)、市立八尾中学校において、「中河内地区支部消防総合訓練」が開催され、八尾市消防団は、「規律訓練」を行いました。

久宝寺・西郡・八尾・龍華・山本の各分団より選抜された31名は、6月中旬から連日の猛暑の中練習を重ね、本番に臨みました。当日は、大声援に送られて訓練を開始、隊員一丸となって見事な訓練を行い、団長はじめ関係者から盛大な喝采をあげました。

岡井小隊長の話

「訓練当初は、号令ひとつにも戸惑いがありました。回数を重ねるうちにそれも薄れ、当日は、『やってやるぞ!』の気持ちでスタートしました。緊張? 正直かなり緊張していました。出発点にもどってきたときは、なんとも言えない一体感、達成感を覚え、すがすがしい気持ちになりました。隊員の皆さん、ご指導頂いた消防本部の方々、最後まで本当にありがとうございました。」

八尾市消防団員任命式



任命式

平成14年4月1日、消防団員の任命式が行われ、20名の新団員が誕生しました。精鋭20名の抱負等を伺いました。

- ① 職業
- ② 趣味
- ③ 抱負

新団員紹介



織田和彦
(曙川分団)

- ① クリーニング業
- ② 特にありません
- ③ 皆様の足を引っ張らないように、又現場には1回でも多く駆けつけたいと思います。一生懸命頑張りますので、よろしく願います。



長岡恒平
(曙川分団)

- ① 建築業
- ② バイク
- ③ 地域の防災活動に出来る限り頑張りたいと思います。



木村哲章
(曙川分団)

- ① テント・看板・建築・店舗設計
- ② 野球・将棋
- ③ 地区の人々の為頑張ります。



吉田美紀
(西郡分団)

- ① 運送業
- ② サーフイン・ビリヤード
- ③ 少しでも何か地域のために役に立てればと思います。



村上 勇
(久宝寺分団)

- ① 自営業
- ② バスフィッシング
- ③ 地域防災の様々な活動に参加して、住民のためにも、火災のない安全な町になる様、励んで行きたいと思えます。



川田 剛
(山本分団)

- ① フリーター
- ② 音楽・サッカ―
- ③ 自分なりに、一生懸命頑張つてやって行きたいです。



塚尾誠一
(山本分団)

- ① フリーター
- ② パソコン・ドライブ
- ③ 皆さんと力を合わせて頑張ります。



藤井保士
(山本分団)

- ① 会社員
- ② 釣り・スポーツ
- ③ 地域の防災活動に協力して行きたいです。



正木隆士
(大正分団)

- ① 会社員
- ② スノーボード・ドライブ
- ③ 消防団員として恥をかかないように頑張りたいと思えます。



松本 徹
(大正分団)

- ① 自動車修理・販売
- ② 磯釣り
- ③ この機会に少しでも地域社会に貢献できるように頑張ります。



木田宗利
(大正分団)

- ① 自営業
- ② ゴルフ
- ③ 地域防災に少しでも役立てるよう頑張ります。



乾 和仁
(大正分団)

- ① 自動車板金塗装
- ② 旅行
- ③ 諸先輩方の指導のもと一生懸命頑張ります。



竹澤 寛
(南高安分団)

- ① 会社員
- ② ドライブ
- ③ 地域社会に貢献できるように頑張ります。



松浦洋憲
(南高安分団)

- ① 農業
- ② パソコン
- ③ フレッシュパワーで頑張ります。



長峰宏輔
(南高安分団)

- ① 農業
- ② ドライブ
- ③ 気を引き締めて精一杯頑張ります。



川崎光昭
(南高安分団)

- ① 会社員
- ② スポーツ
- ③ 防災を学び精一杯頑張ります。

新 団 員 紹 介



山中隆義 (高安分団)

①会社員
②バスケットボール
③一日でも早く団活動に慣れたいと思います。



酒井義久 (高安分団)

①プラスチック製造業
②アウトドアスポーツ等
③消防団としての自覚を持って地域の為に頑張ります。



小川正生 (志紀分団)

①製造業
②釣り・パソコン
③一日でも早く消防団の活動に慣れ、地域住民の役に立つよう頑張りたいと思います。



西口泰弘 (志紀分団)

①会社員
②車・ドライブ
③先輩団員の皆様に色々とお教わりながら、少しでも役に立てるように頑張っています。

分 団 特 集

地域の一員 志紀分団

昭和23年4月1日、八尾市に志紀町が編入されるに伴い、志紀町消防団も八尾市消防団第九分団として発足しました。そして平成12年8月には、より地域に親しまれるよう志紀分団と改名されました。

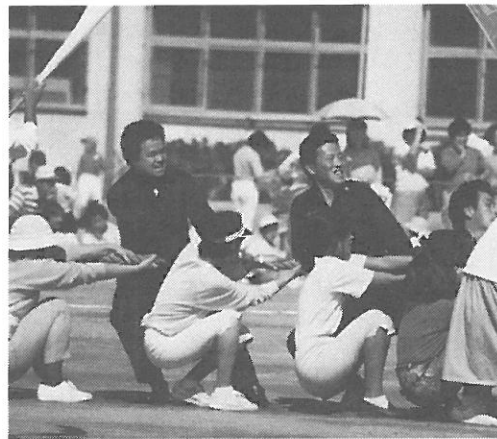
志紀分団は、市域南東部に位置し、八尾空港東側と北側は長瀬川までを活動範囲として防災・防火活動を中心に、志紀地区福祉委員会の一員としての活動もしています。

現在、弓削分隊・田井中分隊・天王寺屋分隊・老原分隊の4分隊、4台のポンプ積載車両と、阪上分団長以下47名が活動しています。

志紀地区福祉委員会の行事については、年2回の美化運動、住民懇談会、毎年10月に行われる志紀地区のスポーツ祭等で、本年度は、6月1日に初めて行われた八尾市・志紀地区福祉委員会、ボランティア団体主催のガレージセールの際にも出場

しました。

また、各分隊においても祭礼・盆踊り・歳末警戒等様々な地域行事に積極的に参加しており、より地域との連携を深め、今後の防災・防火活動の円滑化を図るとともに、消防団活動の重要性を深く理解して頂けるように努力しております。



志紀地区は、一つの小学校区に對して一つの中学校の時期が長くありました。現在は、永畑小学校区の一部も含まれていますが、その時期に学校に通っていた団員が多く在籍しています。このようなことから団員のつながりが良く、良好な人間関係が保たれています。思い起こせば、平成3年度の大阪府消防大会において、小型ポ

ンプ操法で2位に入賞できたのも、このような地域特性のあらわれであったのかもしれない。

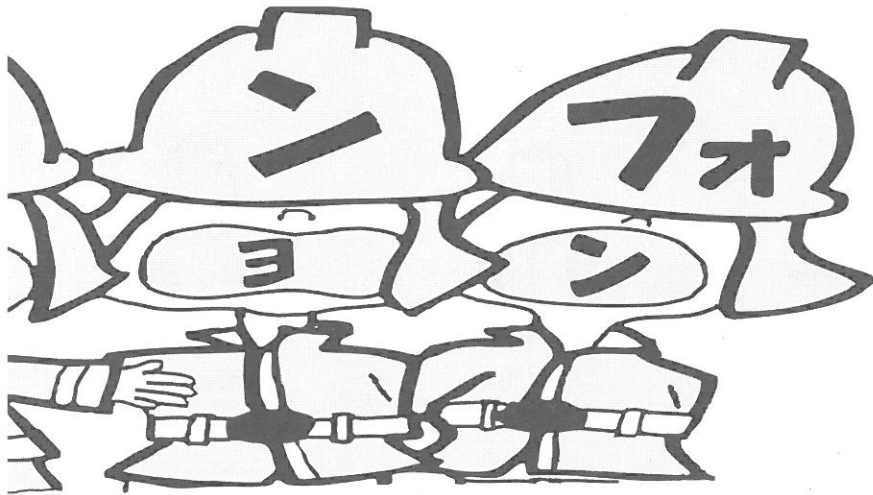
志紀分団 増田・吉内



阪上分団長から一言

日頃の消火活動・防災活動は勿論のこと、志紀分団の特色は福祉事業に特に力を入れている点です。

様々な行事に参加し、真剣に取り組み、また、町会運営にも積極的に協力しています。これからも分団員全員が地域に密着した、信頼される消防団、そして若者達へと受け継がれる消防団を目指して、日々努力し、地域の安全に貢献して行きたいと思っております。



八尾分団

おめでとうございます

昨年秋、勲六等瑞宝章を受章された岩崎前分団長の祝賀会が2月13日にホテルアウイーナ大阪で盛大に開催されました。
岩崎さんは、昭和34年入団以



来、昨年勇退されるまで41年の永きにわたり防災活動に積極的に取り組んでこられました。

祝賀会では、大勢の方々から永年の功績に感謝のこもった祝辞が贈られました。岩崎さんからは喜びの言葉とともに、これからの消防団の活躍に対する期待を述べられました。また、5月12日、当分団において岩崎前分団長を囲む会を開催し、その席上では、分団、地域活動の想い出や、消防力がまだ充実していなかった頃の消防団活動の話で盛り上がり、貴重な体談をお聞きする事が出来ました。

岩崎前分団長に感謝の意を込めて、『受章おめでとうございます。』

八尾分団 小川元

曙川分団

地域ふれあい祭り

3月23日(土) 曙川小学校において、「地域ふれあい祭り」が行われました。祭りの前に200名余りの人々が集まり、火災や災害に備え、通報、初期消火、救急応急処置等の訓練を、消防本部と曙川分団の指導のもと行いました。

火災発生時においては、一人で消そうとせず、大きな声を出して協力してもらうこと。また、応急処置訓練では、グミ人形を使つての心肺蘇生のやり方を一緒に実技し、いざという時に対応出来るよう、皆さん真剣に取り組んでおられました。

曙川分団 吉川



大正分団

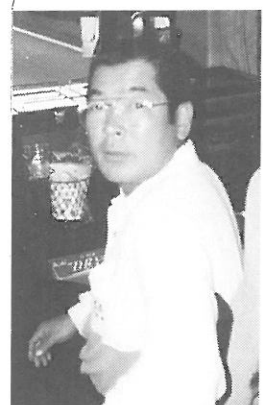
木の本分隊の兄貴分

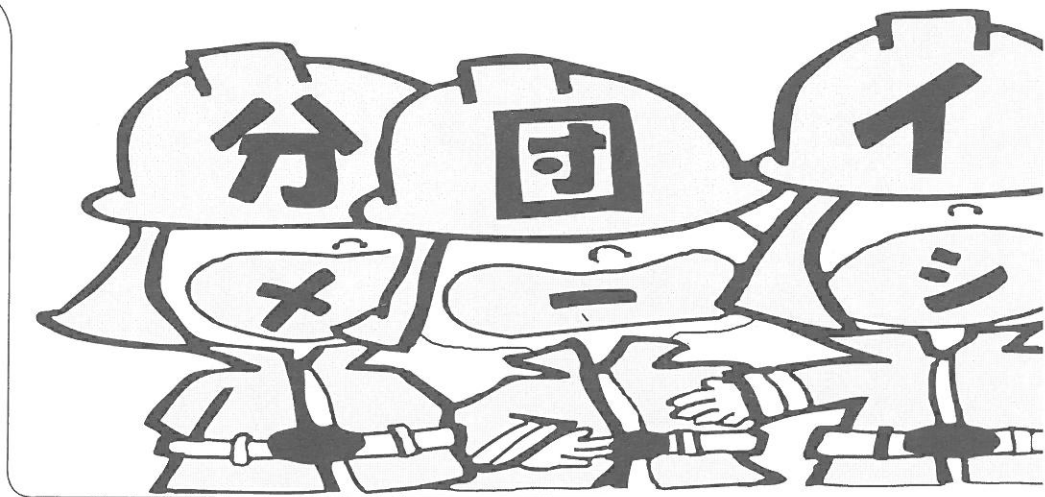
恒例となりました大正分団の名物団員の紹介ですが、今回は木の本分隊の、岸本 修さんです。「ぎつしゃん」の愛称で親しまれている岸本団員は、平成3年度入団で11年目のベテランになる昭和26年生まれの51歳、とても面倒見が良く、団の若手や地元青年団にとっては、気さくな兄貴的存在です。

また、車の運転が好きで、出勤時は自ら率先して消防車の運転手役を買って出てくれます。趣味は？と聞くと、「畑で野菜作りやな」と照れくさそうに答えてくれました。

今年度から班長になり「今まで以上に地域に密着して防災活動に頑張りたい！」と気持ちも新たに抱負を語ってくれました。

大正分団 杉本





久宝寺分団
 屯所リニューアルで
 お披露目

私達にとって待望の屯所改築が完了し、6月8日(土)、関係各位の皆様を迎え、お披露目式典を開催しました。



旧屯所は、かねてより老朽化が進行し、また消防車庫の扉が木製のガラス戸であったため、防犯上の問題も抱えていました。この程関係者のご尽力により、3月上旬から工事に着手、6月5日に無事完成の運びとなりました。

改築された屯所は、寺内町の面影を残す久宝寺の歴史的景観にマッチする外観になっており、道行く人々の足を止めています。

式典は、約40名が出席して盛大に行われました。席上、藤本分団長は、「着任早々、ビッグな贈り物を頂いた気分で、私を含め団員全員とても光栄です。これを機に今まで以上に団結を深め、地域を災害から守るよう努力して行きたいと思えます。」と力強く挨拶しました。

今年5月12日、上之島分隊は、恒例の2年に一度の家族日帰り旅行に出掛けました。朝早くから、バスを1台チャーターし、それぞれの家族と一緒に乗り込み、姫路セントラルパークへと向いました。普段なかなか顔を合わす事のない家族同志ですが、向かうバスの中でドラえもんビデオを見たりして、コミュニケーションもすぐさま取れ、ワイワイ言っている間に到着、サファリパークでは、本物の動物を間近に見ることが出来、子供達は大喜びしてくれました。遊園地では昼食タイム、大空の下、新鮮な空気を吸いながらみんなで一緒に食べた弁当は格別でした。フリーパス券で、大人も童心に返り子供たちと一緒に楽しみました。

山本分団
 家族日帰り旅行

した。乾杯の後、出席者全員で歓談、屯所内を見て頂き、約1時間で閉会となりました。

久宝寺分団 志村



上之島分隊 西村公

帰りの車中では、ビンゴゲームをして盛り上がり、賞品は各自が持ち寄ったささやかな物でしたが、みんなとても喜んでくれました。

夕食は「焼肉のはや」でたくさん食べて、飲んで大満足で帰途に。

家族に日頃感謝の気持ちを表すことの出来ない不器用な団員達ですが、この様な形で感謝の気持ちを表すのも良い機会だと思えました。

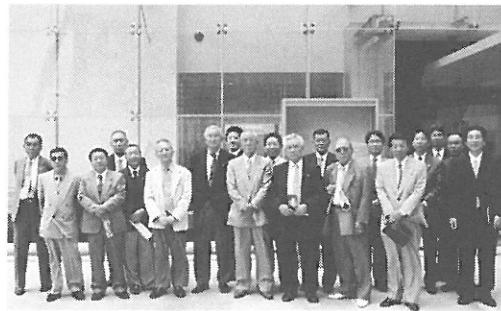
二年に一度とは言わず、毎年でもこの様な機会を設けられたらと思います。

▶ 視察研修への初参加 ◀

去る、6月21日、分団長就任後、初めて団幹部視察研修参加という事で、神戸市中央区の「阪神・淡路大震災記念 人と未来防災センター」へ行って参りました。

館内では、地震発生により崩壊していくビルや高速道路の様子を大型映像により伝える「1・17シアター」、地震直後の破壊された街並を、ジオラマ模型で再現している「震災直後のまち」、震災から復旧・復興していくまちの姿を映像で伝える「大震災ホール」、市民の協力により集積された震災関連情報等、様々な角度から震災を疑似体験しました。

とりわけ印象的だったのは、「震災を語り継ぐコーナー」において、当時、芦屋市職員で、現在ボランティアとして当館で働いておられる、谷川三郎さんの生のお話でした。谷川さんの体験された、当時の想像を絶する悲惨な有様、災害に対し尽力された市職員、消防職員、消防団員のこと等、改めて自然災害の恐ろしき、自然災害に対する人間の無力さを痛感しました。と同時に、我々消防団の存在意義、必要性を再認識しました。

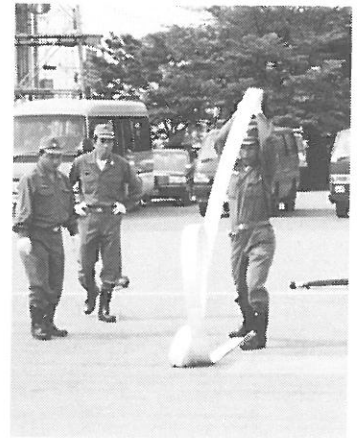


指導・世帯構成等の把握・災害を未然に防ぐ予防活動の強化・災害に対する迅速、正確な指令系統の確立

など、これまで以上に尽力していかなくてはなりません。

この視察研修は、未熟な私にとつて、災害に対する意識を向上させる有意義な1日となりました。皆様方におかれましても、これまで以上の消防団活動への尽力、意識向上をお願い致します、私の報告とさせて頂きます。

久宝寺分団分団長 藤本哲也



初任・幹部教養

平成14年度中河内地区 初任・幹部教養が、5月12日、府立消防学校にて行われました。

八尾市・東大阪市・柏原市の消防団員が参加し、初任教養においては、消防の組織及び制度、訓練礼式、筒先やホースの取扱等、消防団員としての基本的な知識を学びました。幹部教養では、それに加え、幹部団員としての心得、及び実際の災害現場における安全管理など、大変有意義な1日でした。

帰路、初任受講団員は、「消防団に入り貴重な体験ができて大変よかったです。今後消防団員としての活躍に胸が踊る思いがします。」と語っていました。

自分自身も含め、消防団員としての自覚も新たに、行動を律して行く必要を感じました。

志紀分団 増田

初期消火により団長表彰

7月6日午後5時過ぎに、教興寺地区で発生した雑草燃焼事案に際し、早期発見と的確な活動により延焼拡大を阻止した功績を讃え、8月21日、松村消防団長から、

南高安分団 坂上分団長
同じく 寺川副分団長

の両団員に、表彰状並びに記念品が贈呈されました。

八消会ゴルフコンペ



平成14年6月5日、消防団厚生事業の一環として、第19回八消会ゴルフコンペが、ジャパンプラシックカントリークラブにおいて川野副団長以下61名が参加して行われました。

上位入賞者は、次のとおりです。

- 優 勝 阪本 俊勝 (大正)
- 準優勝 平岡 元司 (大正)
- 3 位 川合 清隆 (八尾)

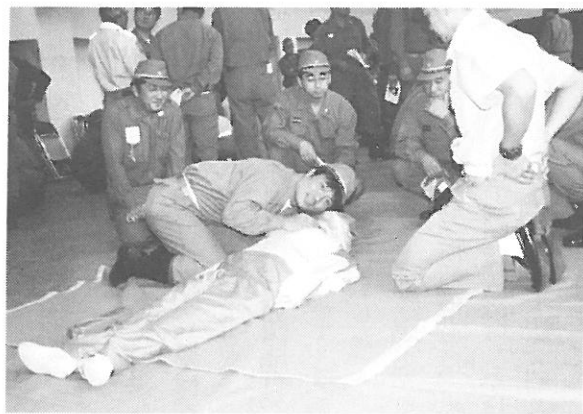
大正分団 辻井

団員技術講習行われる!

平成14年6月23日、消防本部にて、技術団員他99名が参加し、団員技術講習会が行われました。

最初に、八尾警察署の糺交通課ただす長代理を講師に迎えての交通安全講習、次に救急救命士による普通救命講習と内容の濃い講習となりました。

- ① 従来の心肺蘇生は、意識確認(なし)
- ② 助けを呼ぶ
- ③ 口の中を調べる(異物があれば取り除く)



5月31日(金)、藤井寺市川北3丁目地先の大和川右岸河川敷にて、大阪府、大阪市、近畿地方整備局主催による防災訓練が防災関係47機関、ヘリコプター3機、舟艇4艇、車両50台、バイク6台、人員約一〇〇名の参加するという大規模な総合演習が行われました。

大阪府地域防災訓練

- ④ 気道の確保
 - ⑤ 呼吸を調べる(なければ)
 - ⑥ 人工呼吸2回
 - ⑦ 脈を調べる(なければ)
 - ⑧ 心臓マッサージ15回
- の順序で行われていましたが、③と⑦が省かれ、また、②の助けを呼ぶ場合は、一人を指名するようになりました。
- 講義の後、参加者全員が各班にわかれ、心肺蘇生法の実技に真剣に取り組んでいました。
- 高安分団 小西



訓練は大型台風による豪雨のため、大和川の水位が急激に上昇し水防警報が発令されたとの想定で進められ、八尾市消防団(志紀・龍華分団)はせき板工法という水防工法を行った。

この工法は、増水が激しい時に越水を防止するため行うもので、堤防に杭を打ち込み、板等を取り付け、中に土のうや土砂を入れて防水せきを作る工法です。

大規模な訓練に参加しこのような災害が起こらないことを祈るとともに、起こった時は各地域、機関との連携を保ち、的確に対処できるように防災に対しての意識と団員としての自覚を高める訓練となりました。

龍華分団 岸・廣岡

防災訓練実施

9月8日(日)、成法中学校で、八尾市長をはじめ防災関係機関、地域住民、一、五〇〇人が参加して、八尾市防災訓練が実施されました。

訓練はマグニチュード7.2の直下型地震により、大きな被害が出ているとの想定で、本番さながらの緊迫したものとなりました。

八尾分団も、自主防災組織と連携した避難誘導訓練や、消防署との合同による消火訓練に参加しました。

昨年入団し、まだまだ経験の少ない私にとって、現場での的確な行動をとることや、各関係機関がどのような活動をされるのか、どうかわかってくるのかなどを実感できる訓練となりました。

また、地震や他の災害が起こっても、最善の対処が出来るように日頃より訓練し、地域との連携を高めていくことが地元に着して我々消防団の役割であると再認識することができました。

八尾分団 小川 元

南高安分団総合訓練

梅雨の晴れ間にそよぐ木々の緑も深みを増す6月16日(日)、立原総池(恩智)において、消防関係者並びに地域の役員が見守る中、消防職員22名、南高安分団40名が参加し、大規模な総合訓練が行われました。

畑中方面隊長より、訓練想定が付与され、坂上分団長指揮のもと、最初に、立原総池の護岸が決壊しかけているとの想定で、水防工法(積み土のう工)訓練が行われました。

その後、地震により、関西電力信貴変電所から出火し、付近の山林に延焼拡大しているとの想定で、林野火災訓練が行われました。

この訓練では、可搬式ポンプによる立原総池への水利確保とホース逆延長訓練、中継ポンプから分岐管を使用する放水及び簡易水槽への送水訓練、また、簡易水槽にポンプ車が部署しての放水とジェットシューター(背負い式手動ポンプ)への補水訓練、ジェットシューターによる延焼阻止訓練と、実戦さながらの緊迫した訓練が繰り広げられました。

林野火災の場合、特に水利部署が限られ、車両が進出出来ない場所が多く、機材の搬入には時間と人手が

かかり、消火活動が遅れ大規模な火災につながります。今回の訓練を通じて、初期消火の重要性を学びました。そして、



息をきらし駆けて行く団員の姿が印象的でした。

南高安分団 松岡利



まち火消 川柳コーナー

今回は、皆様よりお寄せいただいた川柳の中から6句、紹介いたします。

- 「ワン切り」に 火事やと思ひ 跳び起きる 不携帯
- オオ火事だ ムネオハウスだ どうすんねん 田中マキオ
- なんでやねん 入浴中に ウーカンカン かみなりおやじ
- 気いつけや 花火の後の 身の周り 丕矢
- その辺に ボイッと捨てる 火事の素 御米
- 床につく 枕もとはは 作業服 枕消士

● 広報部会名簿 ●

委員長	久宝寺分団	横山典久
副委員長	高安分団	小西光清
委員	八尾分団	小川元
	久宝寺分団	志村正雄
	西部分団	嶋林正
	八尾分団	小笠原志一
	龍華分団	武林広
	大正分団	辻井敏
	曙川分団	杉本啓
	南高安分団	吉川公
	高安分団	松岡利
	山本分団	松岡節
	志紀分団	田中孝
		松岡孝
		馬谷隆
		坂上男
		松岡利
		吉川公
		吉川公
		杉本啓
		辻井敏
		廣岡敏
		岸岡敏
		武林広
		小笠原志一
		嶋林正
		志村正
		久宝寺分団
		高安分団
		八尾分団
		久宝寺分団
		西部分団
		八尾分団
		龍華分団
		大正分団
		曙川分団
		南高安分団
		高安分団
		山本分団
		志紀分団

編集後記

記念すべき「火の見櫓」第10号、皆様のおかげをもちまして、無事発行することが出来ました。20号、30号と続けていける様に、これからもご協力お願いします。

(小西)